

南九州地域の歯科医院における小児患者への ラバーダム防湿法使用の実態調査

○池田亜沙子 石谷徳人 稲田絵美 山崎要一
鹿大・院医歯・口腔小児

【緒言・目的】小児の歯科臨床において、ラバーダム防湿法は、安全かつ良質な医療を提供するために必要不可欠な術式であるが、実際の歯科診療で十分に活用されているとは言い難いのが現状である。今回我々は、ラバーダム防湿法の使用状況や使用上の問題点を把握するために、南九州地域の歯科医院を対象にアンケートによる実態調査を行った。

【対象と方法】調査対象は鹿児島県、宮崎県、沖縄県において無作為に抽出した一般歯科医院の歯科医師 200 名（以下、一般歯科医グループ）および小児歯科専門医院の歯科医師 33 名（以下、小児歯科医グループ）である。これらに対し、ラバーダム防湿法の使用状況や使用上の問題点についてのアンケート用紙を郵送し、匿名による返送を依頼した。

【結果と考察】アンケート用紙の回収率は一般歯科医グループ 101 名（50.5%）、小児歯科医グループ 21 名（63.6%）であった。一般歯科医グループにおける小児患者へのラバーダム防湿法の使用状況は、全体の 21%であった。使用理由としては、両グループ共に「術野の清潔な乾燥状態を保つ」が最も多かった。一方、使用していない理由として、「診療効率が悪くなる」、「必要性を感じない」が多かった。使用上の問題点としては、両グループ共に「診療効率」が最も多かった。ラバーダム防湿法を使用している一般歯科医グループと小児歯科医グループとの間に使用目的や問題点などにおける認識の差はなかったが、不使用の一般歯科医グループとの認識の差は大きく、使用効果が十分に理解されていないように思われた。我々は、これらの結果を真摯に受け止め、南九州地域の歯科医療教育研修機関として学生、医療関係者ならびに患者様に理解を求めていく努力が必要であると感じた。

データベースソフト導入後の長崎大学小児 歯科外来における初診患者の実態調査

○新川弘恵、久保田一見*、近藤好夫*、
藤原卓

長大院・医歯薬・小児歯、

*長大医歯病・小児歯

【目的】近年、小児の口腔内環境に対する意識は向上しており、歯科への要求も高まっている。そのような状況を検討するため、長崎大学附属病院小児歯科外来では、平成 15 年 1 月よりデータベースソフト（ファイルメーカーPro6）を導入し、以後約 2 年半にわたって初診患者の実態調査を行った。今回はその結果について報告する。

【調査対象及び項目】調査対象は、平成 15 年 1 月 7 日から平成 17 年 6 月 30 日までの約 2 年 6 ヶ月間に本学附属病院小児歯科外来を受診した初診患者 696 名（男児 363 名、女児 333 名）である。調査項目は、患者数、性別、年齢、主訴、居住地域、紹介元である。

【結果及び考察】当科外来に来院した初診患者の年齢においては、特に乳児期から小学生の児童の来院率が全体の 87%を占めている。主訴は齲蝕治療および予防が 309 名で全体の約 44%を占めているが、年々その割合が減少傾向となる一方で、外傷および摂食・嚥下指導の割合が近年増加傾向にある。居住地域は、長崎市周辺が 562 名で全体の 84%を占めているが、一方で島原・諫早など遠方からの来院も見られた。紹介元では、「紹介なし」が最も多く、次いで「兄弟姉妹」「学内」の順であったが、平成 17 年に入り開業医からの紹介が若干増加している。

小児の口腔内環境への意識向上に伴い、長崎県における三次医療機関としての、当院小児歯科への期待や要望は高まっていると考えられる。今後もその役割を果たすべく、受け入れ態勢を整備する必要性が示唆された。